

令和 7 年度

第 3 回 北陸地方整備局事業評価監視委員会 議事録

1. 日 時：令和7年11月4日（火）14:00～16:30

2. 場 所：北陸地方整備局 4 階 共用会議室（Web併用）

3. 出席者：委 員）佐伯委員長、市川委員、魚屋委員、片桐委員、呉委員、小山委員、古谷委員、柳原委員
整備局）局長、副局長、総務部長、企画部長、河川部長、道路部長、港湾空港部長、営繕部長、用地部長、統括防災官、環境調整官、道路調査官、河川調査官、総合土砂管理官、道路計画課長、河川計画課長、東北地方整備局 道路計画第一課長
事務所）羽越河川国道事務所長、長岡国道事務所長、新潟国道事務所長、富山河川国道事務所長、金沢河川国道事務所長、東北地方整備局 酒田河川国道事務所長

4. 審議等案件

1) 再評価

- ◆手取川水系直轄砂防事業 (金沢河川国道事務所) [重点審議]
- ◆一般国道 7 号朝日温海道路 (羽越河川国道事務所、新潟国道事務所、酒田河川国道事務所) [重点審議]
- ◆一般国道 17 号六日町バイパス (長岡国道事務所) [重点審議]
- ◆一般国道 8 号豊田新屋立体、中島本郷立体 (富山河川国道事務所) [重点審議]

5. 審 議

1) 砂防事業の再評価 <重点審議>

- ◆手取川水系直轄砂防事業 (金沢河川国道事務所)

(委員)

- ・これまで砂防事業は審議案件としてあまりなかったと思いますが、道路や港湾は住民にも見える事業ですが、砂防事業もこのようにご説明いただくことで災害発生率が高く、膨大な費用を要する工事であるということを認識させていただきました。
- ・新潟市で「ぼうさいこくたい」が開催された際に、国土交通省砂防部のブースがあり、国内で実施している砂防事業を一般参加者にも説明していただいていたので、非常に重要な事業なのだと思います、この手取川水系の砂防事業のご説明をいただき、これだけ歴史があり、長年取り組まなければならない事業なので、非常に費用的に大変かと思いますが、そこに住民もいらっしゃるということと、観光としても大切な地域であるということを認識させていただいたので、もちろん継続されていくべき事業であると思います。

(委員)

- ・1点目として、「(3) 貨幣換算することができない人的被害の軽減」とありますが、これは100人も死者数が減少するため、今後はしっかり貨幣換算していかなければならないのではないかと考えています。貨幣換算が難しいのは理解できるのですが、そういった研究も進んでいるの

ではないかと思うので、参考でもよいのでこういうことはしっかりと検討すべきなのではないかと思います。最終的にはB/Cだけで判断されそうで、このように死者数が減少する事業をベネフィットに入れないのはもったいない気がするので、今後はそういったものも何とか検討できれば良いと思いました。

- ・2 つ目が、砂防事業で森林管理や山の管理などをしっかりと実施できれば、熊と遭遇するようなことがなくなるのではないかと考えられるため、流域管理のようなことも工事と同時に進めていければ、住民にとって良いことになるのではないかと思います。

(北陸地方整備局)

- ・貨幣換算については、この資料にあるように避難率が何%だった場合ということで想定されておりますが、どれくらいの方が避難されるかというのは、雨の降り方など様々な要素によって変化しうるところがあり、1 つの値に仮定するのはなかなか難しいということから、貨幣換算には入れていない状況でございます。非常に重要な視点であるということですので、現状はそういうことになっています。
- ・また、熊や森林の管理という視点もご指摘いただいたので、事業にどれくらい取り入れられるかというところは検討が必要かと思っておりますけれども、貴重なご意見として承ります。

(委員)

- ・事業について反対するということは全くなくて、この事業の継続については賛成です。
- ・資料 8 ページの地図を見ると、この場所というのは扇状地かと思うのですが、8 ページの下図は、つまり扇状地の比較的浅いところに水が残るようにして、すでに堆積しているようなところに水を集めていくようなイメージと捉えればよいのでしょうか。
- ・その上の図も、中期的な目標を完了するということで被害が軽減されるというところに水がいかないようにしているという、そこに土手を高くしてそちらに行かないようにしているというイメージなのかなと思ったのですが、その理解で正しいのでしょうか。

(北陸地方整備局)

- ・この図ですが、対策前は多くの土砂が流出してくるということで、その流出してくる土砂により川の断面が土砂で埋まってしまうことによって、水が溢れやすくなるということが、上流で砂防事業をすることで、その流出土砂を減らすことにより溢れる水が減るようになるということによって、氾濫被害の軽減に繋がっていくといった趣旨でこの 2 つの図を載せています。

(委員)

- ・そうすると、この深くなっている土砂堆積と土砂堆積が解消と書いているところが川で、その両側が扇状地の人が住んでいるところという意味なののでしょうか。

(北陸地方整備局)

- ・おっしゃるとおりです。
- ・川も普段流れている場所と高水敷ということで、普段は土地利用しているのですが、大雨の時には水が流れるような複断面が手取川にもあるので、こういった図で表しています。

(委員)

- ・向かって右側のほうに家の図が書いていなかったのも、上の扇状地の図と一緒に見ると、右と左で水を集める方とそうではない方と分けているのかと思ったので質問させていただきました。

(委員)

- ・手取川も立山と同様にかなり昔から砂防事業が進められているが、まだ不十分ということで、これから事業を展開していく形になるかと思いますが、最近は雨の降り方も異常になっておりますし、土砂の出方も少しおかしいという個人的な印象があるのですが、いずれにせよ流域全体の管理という砂防事業の根幹、それが入口でそこが崩れると全体的に崩れるので、やるべきことは続けていただきたいと思います。
- ・もう一つは、こういう事業に取り組んでいるということを、地元であれば非常に重要性が分かりますと思いますが、できればより多方面に、なぜこういったことをしなければならないのか、事業の重要性を強くアピールするような何かを今後考えていただければよいと思っております。
- ・白山の砂防は事例としても重要な案件なので、そういった意味でやっていただければよいと思っております。

(北陸地方整備局)

- ・非常に山奥で実施している事業ですので、なかなか現場が見えづらいというところもありますし、ご指摘もいただきましたので、PR も戦略的に進めていければと思います。

(委員)

- ・私も他の委員と同じで、この事業に関しては賛成しているので、手取川というのは石川県にとって大きな川であり、水道あるいは電気も含めて大事にしていかなければならないと思っています。
- ・説明の中で一つ疑問に思ったことがあったので確認させていただきたいのですが、資料 8 ページで着手時と完了時の図がありますが、これを比較したときに手取川の北側のところだけ効果が出て、南側の深度が全く変わっていないというところが何故なのか、疑問に思ったので教えてください。

(北陸地方整備局)

- ・赤い点線で囲っているところの下縁のところを手取川の本川が流れているところとございまして、この川が流れていく方の右岸が北側で左岸が南側になりますが、堤防の高さと背後の地盤高の高さの違いによってこういった違いが出ておりまして、北側のほうは比較的地盤が高いためにこういった氾濫の被害が大きく減少するのですが、南側は現地盤が低いので、氾濫した場合の被害の広さがあまり変わらないこととなります。水深については減少するところもございしますが、範囲については広範囲になってしまうということから、こういった差に繋がっているというところとございます。

(委員)

- ・この工事について問題があるというわけではないのですが、この工事が完了するまでの間に被害がある可能性があることや、中期的な目標の着手前のところと完成時の前のところで、氾濫による被害が起こりうるということなので、防災の対策と工事を進めているというところが白山市などにうまく伝わっていくと良いと思いました。
- ・今事業に取り組んでいるが、こういった被害が起こる可能性があるということは皆さんハザードマップでよくご覧になっていると思うのですが、先ほど 100 名死亡者が減るかもしれないという話はしていましたが、今の状態だと 100 名が亡くなってしまうので、そのあたりの防災の取組が一緒にセットで出てくると、この意味も伝わっていくのではないかと感じました。

(北陸地方整備局)

- ・先ほども触れました、昭和9年の災害が地域の流域の中でも非常に大きな災害ということで、今でも防災のときに取り上げられている災害でもございますので、そういった中にこういった土砂災害や砂防事業の必要性なども加えて説明をしていけるような形で取り組んでいければと思っております。

(委員長)

- ・私からも1点だけ、事前説明の際に指摘すればよかったのですが、資料7ページについて、事業費の見直しということで、生コンの単価と労務単価が上がっているのは確かにその通りだと思うのですが、その比率だけだと誤解を招きやすいため、絶対値を出してもらいたいです。例えば生コンの単価は確かに高くなっていますが、全事業費に含む材料費の割合というものが出ていると、誤解を生む気がしましたので、そういったことも含めてご説明いただけるとありがたいと思いました。

[重点審議案件の総括]

(委員長)

- ・ご発言いただいた委員の皆さんより、事業の継続については特に問題ありませんというお話でした。効果もありますし、B/Cも高いですし、ぜひ続けていただくのが良いかと思います。コメントとしては事業の必要性をもう少しアピールしたらどうかとか、流域をより総合的に包括的にやっていくことが良いのではないかなというようなご意見もいただいたので、それらを含めてご検討いただければと思います。
- ・只今ご審議いただいた重点審議案件1件について、当委員会としては事務局が作成した対応方針の原案の通り、事業継続が妥当ということでよろしいでしょうか。[出席委員了承]

2) 道路事業の再評価 <重点審議>

◆一般国道7号朝日温海道路（羽越河川国道事務所、新潟国道事務所、酒田河川国道事務所）

(委員)

- ・トンネルが多いうえに、脆弱な地盤で工事が非常に大変だということについては、事前説明の時に映像で見せていただいたこともあり理解しておりますが、費用の増額が300億円以上ということで、これはスタジアムが1個できてしまうような費用でもあり、それだけ安全を守りながら取り組まなければならないということで、非常に大変な事業だと思います。
- ・災害時の道路確保という点でもしっかりとした道路となることを非常に期待しているのですが、日本海側、富山県・石川県もそうですし、東北地方においてもこの道路の意義というものは非常に大きいです。災害時は、太平洋側に行く際にも、日本海側を迂回した方がよい場合もあるなど色々なことを考えなければならず、日本海側の道路を整備することは非常に大事なことだと思っております。
- ・また観光振興においても、やはり道路というものは非常に大事ですので、災害はもちろんです。が、経済面、観光面全体から考えてもこの道路の重要性を感じました。
- ・ただし、費用が大きく増加していますので、その点を踏まえながら引き続き事業を進めていただきたいと思います。

(北陸地方整備局)

- ・この事業の意義をご理解頂きましてありがとうございます。

- ・一方でおっしゃるとおり、そもそも事業費が大きい事業ですし、それがさらにトンネルで苦勞している状況で事業費の増も発生しているということでございますので、引き続きコスト縮減を我々としては努めてまいりまして、できるだけ安価に且つ1日も早くというところで頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。

(委員)

- ・事業につきましては、特に異論はございません。この朝日温海道路は日本海沿岸道路の一部をなすということで、日本海の国土軸形成という観点から見ても非常に大事な道路だと考えております。
- ・東北まで目を向けるとまさに太平洋と日本海という二面活用という点からも非常に大事な存在であると考えておりますので、事業を進めていただきたいと考えているところです。
- ・一方で先ほどのご指摘でもありましたが、どうしても大きな道路なので、事業費が相当かかるという認識でございます。その中でいかにして必要性を主張していくかということがこの道路では課題かと思っております。その中で、投資効果に乗らないもの、B/Cに乗ってこないもののご説明をいくつか頂きました。非常に大事な観点かと思っておりますが、その中で最後の6点目であったカーボンニュートラル実現への貢献というものについて、大事な論点であるという認識はしている一方で、11億円の効果についてはどのように評価して良いものか。この評価については今年度始まったばかりと聞いておりますので、まだまだこれから精査していく必要があるかと思うのですが、その点について現状での評価を頂くことは可能でしょうか。

(北陸地方整備局)

- ・おっしゃっていただいたとおり、まだ算出案ということで作られておりまして、一方で実際にCO₂がどの程度減ることによって環境または日本国全体もしくは世界全体にどういった良い効果をもたらすのかというところは、算出しきれない部分なのかなと思っております、おそらくこのマニュアルの担当部署でもこのマニュアルの精度の向上、質の向上は取り組まれるのではないかと考えておりますが、現時点で出されている案に基づいて算出された結果ということで、今回ご説明させていただいた次第でございます。

(委員)

- ・確かにこういった小さいものの積み上げが地域に対する説明に繋がっていくものだ和理解、確信しておりますので、引き続きよろしくお願いします。

(委員)

- ・事業については継続してください。残事業のB/Cは高いですし、ここでやめるという選択はないと思いますのでよろしくお願いします。
- ・CO₂排出の便益があると思うのですが、工事そのものを実施するときに排出されるCO₂というものは含まれているのでしょうか。

(北陸地方整備局)

- ・工事を実施する際に排出されるCO₂は考慮しておらず、道路が完成した後に走行する車両から発生するCO₂を算出しているものとなります。

(委員)

- ・分かりました。おそらく今後そういったことも指摘される場合があると思いますので、それに対する説明ができるように、引き続き理論整理をよろしくお願いします。

(委員)

- ・事業は継続で全く問題ないです。少し論点から外れてしまうかもしれませんが、資料 9 ページの対策概要図にある押え盛土や抑止杭について、地滑りの A ブロックというのは A-1・A-2 ブロックよりも一回り大きいブロックとなっているかと思いますが、その場合、A-1 とか A-2 の地滑りの形を見ると、A ブロックの方はもう少し大きく動くのではないかと疑われても仕方がないと思っていまして、もし A ブロックが何か悪い動きをするような可能性があるとするれば、この対策では効かないと思われるのですが如何でしょうか。

(北陸地方整備局)

- ・現地調査をしたうえで対策を決定しており、この図に A ブロックを表示させたことが紛らわしかったかもしれないです。

(委員)

- ・表示はしてもらって結構ですが、もしその影響が大きいのであれば、それを踏まえて対策をしておかないと後で大変なことになるという観点です。

(北陸地方整備局)

- ・ありがとうございます。そういった影響がないかということも考慮しまして、引き続き対策を検討してまいります。

[重点審議案件の総括]

(委員長)

- ・複数の委員から同じような意見がありましたが、この事業は太平洋と日本海という視点で見ても重要ですし、北陸と東北の連結というところでも非常に重要な道路ということで、特に継続に問題はないだろうというお話だったかと思います。
- ・ただ、事業費が大きく、特にトンネルは致し方無いところがあるのでしょうか、やはり費用の増額という形で進んでいくようなことが多いので、丁寧な説明が必要で、今回委員のお話でもありましたように、映像で見せていただくと非常に実感もできたということで、そういった説明を丁寧に進めて、我々以外の一般の方にも知っていただけると良いと感じました。
- ・只今ご審議いただいた重点審議案件 1 件について、当委員会としては事務局が作成した対応方針の原案のとおり、事業継続が妥当ということによろしいでしょうか。[出席委員了承]

◆一般国道 17 号六日町バイパス (長岡国道事務所)

(委員)

- ・新潟県民として非常に興味深く説明を伺ったのですが、まずこの地区が米作りにおいて大事な地区であるということで、非常に配慮された工事の計画を立てているということが分かりました。
- ・交通事故が多いことに関しては、季節性に関係があり、この事故も冬期が多いのではないかと考えておりますが如何でしょうか。
- ・また、話がずれるかもしれないのですが、救急医療施設へのアクセス向上ということで、たまたま先週、魚沼基幹病院を中心とした 6 病院の新人看護職員研修会に参加してきましたのですが、医療の中においてもお互いの病院を知るということは非常に重要だということで、連携していくということ、この地区においてどのくらいの距離があって、どのくらいで駆け付けられるの

かということを知るという意味でも、このバイパスの意義はあると思いますし、この地区だけではなくて、その周辺地区にも影響が出てくる道路であると思いますので、移動時間が短縮されるという点において非常に重要であると思いました。

- ・加えて、このバイパス付近には学校や保育園があると思うのですが、バイパスができることによって交通状況も改善されると思いますので、非常に大切な道路だと思っております。

(北陸地方整備局)

- ・事故に関して季節変動があるのではないかとご質問いただきました。こちらでも調べましたが、雪が降っている時期の事故については、大体1割くらいで、逆に速度が落ちるという側面もあると思いますけれども、雪のない時期が9割です。その日の天候、晴れとか雨とか曇りだとかそういった日がございますが、これについてもばらつきはなくて、晴れが4割、曇りが3割、雨が3割というような状況でございます。昼夜別でも昼が6割、夜が4割というような状況になっておりまして、特段大きな傾向は見られないと思います。
- ・市街地部の状況としては、沿道に店舗が多くあり、流出入が多いようなところもございますので、その辺の関係で直進車との追突事故などが生じているのだろーと考えているところです。

(委員長)

- ・この道路に限らず、道路を通すというのは様々な効果があつて、B/C はあまり高くはないですけども、それに囚われることなく進めていただくことが良いのではないかと思います。
- ・視察で見せていただいたときに、バイパスのほうが高標高のところにあって、冠水の話がありましたが、これだと雨が降っても大丈夫だろうということが良く実感できて、現場を見せていただいてよかったと思いました。

(委員)

- ・この事業に限らずですが、先ほどのように大きな増額だったので気になっているのですが、毎回労務費と資材価格関係の高騰による増額ということがどうしても大きくなると思います。先ほどは工事が非常に困難だということで大きく増額だったということもあるのですが、労務費と資材高騰というのはこれからずっと続くと思うので、この5年ごとの見直しで増額になった分というのは当然原資としては日本の状況として増えていく経済状況にはないと思います。事業としてはすでに進捗率74%で、用地補償に関しても90%進捗ということで、これの継続に関して何かということではないのですが、全体的に増額しているということに関して、今後も増額のカーブが労務費に関しては特に上がっていくと思われ、その分というのは何かをやめなければならないと思うのですが、どのように考えられているのか、一度伺ってみたいと思って質問させていただきました。

(北陸地方整備局)

- ・労務費、資機材費の増加というのは、資料5ページにありますように増額の内訳としては労務費、資機材ともに令和7年度以降につきましても想定で事業費を算出させていただいて、22億円の増額ということで説明させていただいております。
- ・一方で、増額に対してコスト縮減の観点というものがございしますが、今後も色々なコスト縮減に関する工法の検討や新技術の活用なども含めて、どういったコストの縮減ができるかというようなことは、工事の進捗と併せて検討を進めていきたいと考えております。

(委員)

- ・ありがとうございます。もちろん色々な設備ができるに越したことはなくて、一度進めると決まったものを途中で止めるということはそこまでの投資効果がゼロになってしまう、あるいは負の遺産が残るという意味ではマイナスの効果になってしまうということは重々承知しているのですが、やはりこれだけ賃金の上昇カーブが大きい、それから色々な為替の問題もあって資材費というものが高騰しているという状況ですと、全てプラスされていくことに若干の危機感があるということです。

(北陸地方整備局)

- ・ありがとうございます。いただいたご意見を踏まえ、今後も引き続きコスト縮減の検討も併せて進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(委員)

- ・資料6ページ以降から始まる事業の投資効果のところになるのですが、最初に(1)便益に係る整備効果ということでB/Cに影響を与えるような便益の部分を評価していると思っております、(2)以降はそこに現れないその他の効果ということで資料8ページ以降に色々書いてあるのですが、①と②に少し違和感があって、例えばこの観光産業と中心市街地の活性化支援というのは、日本中どこの地域でも観光振興というものは力を入れていると思っております、六日町エリアで色々やっていたらしゃるイベントは見て分かるのですが、この事業の投資効果として評価するにあたっては、ここに限った話ではないのかなと思いました。
- ・③以降のところについては、このエリアの話としてきちんとデータを集めて評価しているのですが、それ以前がどうなのかということで、いわゆる(2)その他効果の取り上げる基準やルールのようなものがあるのかなのか、少しお伺いしたいと思います。

(北陸地方整備局)

- ・救急医療施設へのアクセス向上や、冬期の円滑な交通の確保、緊急輸送道路の強化ということで、災害時にどういったリダンダンシーが確保できるかということで③、④、⑤と、あとは時間信頼性やカーボンニュートラルで⑥、⑦ということで表現をさせていただきました。
- ・ご意見のあった①観光産業や②定住自立圏といったものがございます。当然、多少の違和感を持たれるのかもしれませんが、バイパス事業は沿線も含めて全体的に観光の活性化や観光の支援というものに寄与するという事で、市街地の現道部分を回避して通過交通をバイパスに流すということになります。全体的に交通の流れが良くなるということで観光地相互の行き来もしやすくなるのか、そういったことで色んな効果があるのではないかとということで①についてご説明させていただいたところです。
- ・定住自立圏の関係については、都市観光保全の関係ですけれども、色々な形で医療や産業、生活環境についても機能強化を行っており、または地域の結びつきとして公共交通や移住の促進といったものもございます。これについてもお互いの地域の往来がしやすくなるのではないかとという観点から記載をさせていただきました。
- ・ご指摘は真摯に受け止めて、今後も投資効果についてもよりよい表現が出来ればと考えております。

(委員)

- ・決して投資効果がないと思っているわけでもなく、この辺の効果もゼロだとは思っていないのですが、今回取り上げていただいたものは年に1回のイベント的なものが多いようにも見受けられたので、少しそのように思った次第です。回答は理解しましたのでありがとうございます。

た。

[重点審議案件の総括]

(委員長)

- ・この事業に関して、特に問題があるというようなご指摘はありませんでした。ただこの事業に限ってというわけではないのですが、労務費や資材費というような事業の種類に関係なく今後確実に増加していくだろうというものに対して、どのように対応していくのかというご質問があったと思いますけれども、この点はなかなか難しいところではありますが、色々と検討していただければと思います。
- ・それでは、只今ご審議いただいた重点審議案件 1 件について、当委員会としては事務局が作成した対応方針の原案のとおり、事業継続が妥当ということではよろしいでしょうか。[出席委員了承]

◆一般国道 8 号豊田新屋立体、中島本郷立体（富山河川国道事務所）

(委員)

- ・全体事業費がかなり膨大な事業費になっているということが印象的なのですが、そのような中でもこの工事の中で、防音施設を追加しなくてはならないという住民への配慮であったり、現在の自転車や車いす利用者の迂回導線を改善したりというところがあって、そういったところにおいては非常に一住民のことも考えられているということを理解させていただきました。
- ・また、工業団地や港へのアクセスなどの産業的にも非常に重要であるということもご説明いただいたのですが、今日ここまで事業を一つ一つ検討してきているなかで、全体でみてこの事業はこれだけ必要であるという説明があると非常に私たちは分かりやすいのかなと思います。例えば、港の話だったら新潟港や富山港、金沢港は繋がっています。先ほどありましたが、東北の秋田港まで繋がっている産業であったり、利便性であったり意義があると思うので、この事業が全体でどうなのかということの説明があると、全体事業費、一つ一つの事業費というものの効果というものがもっと分かりやすいのではないかなと思って聞いていました。今の事業と関係ないことで申し訳ないのですが、感想としてそのように思いました。

(北陸地方整備局)

- ・専門の皆様からご意見を賜りながら、上部機関と相談して進めていきたいと思っております。

(委員)

- ・私自身、富山市内に住んでおりますので、ここを使ったこともあるのでよく分かります。正直、今日の 4 つの道路事業の中でこの中島本郷立体の投資効果が一番あり、事業として進めるべきだと感じっていますが、中島本郷立体については新規事業化以降、周辺に大きな社会経済情勢等に変化はないと記載されていますが、この事業以外も全部そうなのですが、社会経済情勢は大きく変化しています。特に今回この事業で感じたのは、都市計画決定が令和 2 年度でこれはコロナの最初の年ですよね。そして事業化が令和 3 年度で、令和 2 年度というのは賃金が全く上がらず、最低賃金も目安額が出なかったような年ですので、そのあとの賃金だとか色々な経済活動の状況というのはほとんど見通せなかった時期だと思います。一方で、それがまだ見通せていないからこそ令和 3 年に事業化されたのかもしれないと思いますが、これよりもだいぶ前に賃金を上げなくては、実際に工事をする方々というのは少子高齢

化で人がいないということはかなり前から言われていて、賃金が上がるのは不可避で当然上がっていくだろうと。ただ令和2年、令和3年の時点ではここまで上がるとは予測できなかった部分はあると思います。そうすると、社会情勢が変わっていないという記載はどうかという気がしています。

- ・最初に申し上げた通り、正直素人目線でいくと豊田新屋立体よりも中島本郷立体のほうがいち早く作っていただく価値があるだろうと実際に走っていると思います。最近は雪が一気に降り、高速が止まるといったこともあったので、国道8号というのは非常に重要なルートだとは思いますが、この進捗率1%の状態でのこの時の計算上の事業費で進めてよいのかということは正直疑問が残ります。事業の継続については、私はコメントしづらいということが正直なところではあります。この経済状況の変化がないということについては、どのようにお考えなのかということをお聞きいただくと助かるのですが、如何でしょうか。

(北陸地方整備局)

- ・世の中が変わっていないということを申し上げているわけではなくて、事業をめぐる社会経済情勢等の変化の中で、事業の効果や必要性、周辺環境に変化がない、こういったところでございます。先生がご指摘のところは本当に大事だと思います。中島本郷立体については現在設計の段階でありますので、きちんと積み上げの話をしたうえで具体的なところをお示しして、次の評価のときにまたご教授をいただけるものだと思っております。今はまだ設計、そして用地買収を進めている段階でございますので、本体のところとはまた切り離して、あくまで豊田新屋立体と一体で評価をするという考え方の中で説明させていただいたものでございます。

(委員)

- ・繰り返しになりますが、非常に効果は高い事業だとは考えています。それは本当にすぐにもやっていたきたいぐらいに思っていますが、そういう意味では遡って考えると事業化する時に一定程度的コストの上昇というものは見込んでいかないと、毎回毎回5年ごとの事業評価のときに賃金と資材費が上がったということで、こういった厳しい見直しを迫られるような場面が増えてしまうと事業化の本来の意味が薄れてしまうようなことになりかねないのではないかなという懸念があると感じました。

(北陸地方整備局)

- ・重く受け止めて事業を真摯に取り組んでまいりたいと思います。

(委員長)

- ・私からも似たような話になるかもしれませんが、まず事業費の増加の部分で、一体評価ということですが、中島本郷立体のほうは事業がほとんど進んでいないので増加がなく、豊田新屋立体は50%増ですね。中島本郷立体のほうが増えてないから全体としては22%増という表現になっていると思いますが、これを見ると少し印象が悪いというか、薄めようとしているようにも見えなくもないということで、増える分は仕方がないと思いますが、非常に慢性的な渋滞もあるし、事故も多いということで事業の意義を否定する気は全くないですけども、増えた分を薄めているような感じに見えるということが、あまり印象がよくないという気がしました。
- ・それからこれもこの事業だけではないのですが、コスト縮減について前の委員長のときも注意があったように記憶しているのですが、判を押したように新技術を活用してということコピー&ペーストでもしているのかのような感じで毎回出てくるということで、やはりその事業に合った、新技術がないものだってあるだろうし、そういった意味でももう少し事業に合わせて色々

縮減策を考えられるなら考えていただきたいということを申し上げて総括にしたいのですが、その点はいかがですか。

(北陸地方整備局)

- ・コスト縮減につきましては、先生のご指摘の通り全体のいわゆる小手先じゃないというところも含めて、区間ごとの特性を踏まえてきちんと精査をしてまいりたいと思います。引き続きご指導ください。

[重点審議案件の総括]

(委員長)

- ・ よろしく願いいたします。
- ・ それでは他にご意見なければまとめということで、私も事業自体は非常に重要だと思いますので、この重点審議案件 1 件について、当委員会としては事務局が作成した対応方針の原案のとおり、事業継続が妥当ということでよろしいでしょうか。[出席委員了承]

6. 総 括

(委員長)

- ・ 本日の議事概要は事務局と調整の上、後日まとめさせていただきます。
- ・ 議事録は、出席委員に対して事務局より確認し、その後の公表することによろしいでしょうか。[出席委員了承]
- ・ 本日、委員会で用いた資料等について、運営要領第 3 条第 3 項において、委員会の会議に提出された資料・議事録等は公開するものとし、公開する事が適切でないと委員会が判断する資料は公開しないとなっています。本日の会議で提出された資料は、全て公開という事でよろしいでしょうか。[出席委員了承]

7. 閉 会

(北陸地方整備局)

- ・ 以上をもちまして、令和 7 年度第 3 回北陸地方整備局事業評価監視委員会を終了いたします。